

特殊金属 工クセル

埼玉で品質向上投資

今期、熱処理炉など更新

特殊鋼やステンレスの冷間圧延加工等を手掛ける、特殊金属エクセル（本社＝東京都豊島区、谷口毅社長兼CEO）は今期（2020年12月期）、トータル3億円の設備投資を実施する。国内コア製造拠点である埼玉事業所（埼玉県比企郡ときがわ町）では金属コイル用熱処理炉と半田塗布ラインを更新することで品質向上を目指す。また事業所の屋根に加え、駐車場スペースを活用し、太陽光発電設備も導入する。

太陽光発電設備も導入

同社は17年1月に特殊金属エクセルからトッキンHDに社名を変更し、同時に会社分割によって特殊金属エクセルを新設した。19年12月期決算に関して、特殊金属エクセルと海外事業会社4社を含めた連結売上高は88億円と前期比17・8%の減収となり、前期で過去最高となっていた経常利益は同32・8%の減

益となった。磨帯鋼の圧延加工を行う上海隆興特钢は生産・販売が好調を維持し、過去最高益を更新したほか、香港特金もモバイル端末向け電子部品材料が堅調に推移。台湾特殊金属は米中貿易摩擦の影響を受け減益となった。一方、特殊金属エクセル単体の決算は売上高が同17・9%減の55億円で、



20年に改造が完了した多機能・張力圧延機に、ターゲットとする温度での焼鈍調整が容易になり、金属の内部組織をより精緻に整えることが可能となる。現在試運転を行っている。

玉事業所は製品品質向上や安全対策強化、地球環境保全などを目的とした設備投資を計画している。更新する金属コイル用熱処理炉は従来のガス炉から電気炉に切り替えることで、老朽化に伴う設備トラブルの事前解消を狙うとともに、ターゲットとする温度での焼鈍調整が容易になり、金属の内部組織をより精緻に整えることが可能となる。現在試運転を行っている。

降での稼働を計画している。また更新する半田塗布ラインは車載用電子部品向け材料を手掛けており、既存設備に比べて精密な加工を実現させ、今夏に稼働開始する予定だ。このほか、

金属分析器

三洋貿易株式会社
TEL:03-3518-1196

20年では板状および帯状材料の圧延が可能。受託試験用の多機能・張力圧延機を改造し、コイル自身を加熱・保持することで室温から200℃までの安定した温度条件下での張力付加・温間圧延が可能

にした。これによって、難加工性材料の圧延や、実機での圧延条件の正確な模擬が可能となり、材料・プロセスの開発期間が大きく短縮される効果が期待できる。受託試験にも対応し、すでに多くの問い合わせを受けているという。また、圧延工場ではエアコンを増設し、快適な労働環境を整える。

カーポートを設置し、カーポート屋根にも太陽光発電パネルを設置する。埼玉のエネルギー合理化を進める（谷口社長）と発電した電力は自社で活用し、埼玉事業所の年間使用電力量700万kWhのうち、100万kWh分を補う。21年3月末までに発電をスタートする計画。

特殊金属エクセルは今期、新型コロナウイルス感染症影響下で従業員への感染予防・感染拡大防止を徹底し、需要家への製品供給を継続すると同時に、自動車産業の品質マネジメント規格であるIATF16949の認証取得を21年下期に定め、20年7月から自主運用を開始する。世界のトップシェアの独自製品群は19年12月期売上高で25%を占めたが、50%以上を目指し、ニッチ分野での存在感を飛躍的に増していくため、攻めの手を緩めない（水谷徳次郎・取締役兼COO）としている。

特殊金属エクセルは今期、新型コロナウイルス感染症影響下で従業員への感染予防・感染拡大防止を徹底し、需要家への製品供給を継続すると同時に、自動車産業の品質マネジメント規格であるIATF16949の認証取得を21年下期に定め、20年7月から自主運用を開始する。世界のトップシェアの独自製品群は19年12月期売上高で25%を占めたが、50%以上を目指し、ニッチ分野での存在感を飛躍的に増していくため、攻めの手を緩めない（水谷徳次郎・取締役兼COO）としている。